

# あすなろ

発行 沖電気の職場を明るくする会 (OAK) TEL 03-3455-6006  
東京都港区三田3-2-20 FAX 03-3451-3595  
メール: oak@fine.memail.jp

## 沖電気の職場を明るくする会ホームページ



- \* 緊急！許せない賃金カット
- ・ OAKはこう考えます
- ・ 臨時大会傍聴拒否問題
- \* 活用しよう「残業管理表」
- \* その他盛り沢山



<http://users.hoops.ne.jp/oak47/>

# 賃金カットの組合員は困るから困る

- ・ 調整給撤廃は断固反対しよう
- ・ 一日でも早く賃金カットをやめさせよう
- ・ 組合の「ゆうあい資金」を使って従業員を救え

また会社や組合に異議をとなえることに、反対すること会社をやめるつてことだから」と本音とはちがう採決に拳手をする組合員も少なくありませんでした。自分の賃金が大幅に下げられるのに賛成するものはいないよ」といいつつも、労働組合が次々襲う会社の攻勢にたいして防波堤の役割を果たしていないことが

会社の緊急提案への対応を決定する沖電気労働組合臨時大会が三月二十八日開かれ、採決の結果、賛成88、反対が2。この結果が知らされた職場ではいらだちとあきらめと言いつつ、ない気持ちで漂っています。「どうしてもカットするなら(ゆうあい資金)を使えないのか」「組合員はこれ以上給料が減ることは耐えられない」など意見も出ました。採決の中では「反対」と「保留」をあわせた数が「賛成」の倍という職場もありました。

### 賃金カット決定に 職場ではいらだちも

### 臨時大会傍聴参加の 組合員が排除される

七八年の指名解雇以来の臨時大会、傍聴を希望して休暇を取って参加した組合員を会場にも入れないで拒否をするという暴挙が今回もおこなわれました。

たつて 傍聴 希望する人は...と申込み方法を指示しながら、それに答えた真面目な組合員を会場にも入れないで、拒否をする。理由は「職場大会で十分

### 労働組合はいつから 非公開になったのか

執行部。 会社との 協調をいっ そう深め ながら真面目な組合員へは排除する。労働組合はいつから非公開になったのでしょうか。組合の民主主義がますます形骸化されています。(詳細はホームページにて)

七八年の指名解雇以来の臨時大会、傍聴を希望して休暇を取って参加した組合員を会場にも入れないで拒否をするという暴挙が今回もおこなわれました。執行部。会社との協調をいっ そう深めながら真面目な組合員へは排除する。労働組合はいつから非公開になったのでしょうか。組合の民主主義がますます形骸化されています。(詳細はホームページにて)

ある職場で調整給について質問が出ました。「賃金カットと平行して、調整給が一時金にまとめられる。これは、近い将来調整給をなくしていく布石じゃないのか」「執行部はこう答えました。「会社は調整給をなくしていこうと考えているが、組合は考えていない」組合員の懸念は当然で

### 狙いは調整給の 全面撤廃

最大の労働債権である賃金をこのような乱暴なやり方で変質させていくことは断じて許してはなりません。電機業界のなかで沖電気の賃金は下位に位置しています。どこよりも高く賃金カットをし、どこよりも低い賃金では「難局を乗り越えよう」にも従業員の体力が持ちません。働くものが主人公、働くものを大事にしてこそ道は開けてくるのです

「いつものような元気がない」「景気のいい話じゃないからね」「賃金カットについて、申し訳ないと謝罪の一言があってもいいのじゃないか」各事業部ごとに従業員を集めて今後の方針をじかに述べてまわる篠塚社長への感想です。大変な事態だと危機意識をおおりにながら、これからの対応についての具体策は明確に伝わっていない。予測を超える激変といいつつ、これまでのリストラへの反省はなし。過度の人員削減、ひんぱんにおこなわれる出向転籍、日本の産業の衰退を進める海外移転、そして、今回の従業員への大幅な賃金カット。消費者でもある勤労者の財布のひもはいつそう固く閉じられます。失業者も巷にあふれそうです。かくて、景気はいつそう泥沼状態へ。このようなデフレスパイラルから脱する展望を持たない限り、企業も永遠にもがき続けるだけでないでしょうか。

そこまで労働者を追いつめていきます。賃金カットが実行されれば、月々二万円もの減収のうえ調整給(一時金にまとめられる)の分までなくなり、最大五万円もの調整給がついている人は合計七万円も減収となります。それだけに職場では「生活設計がたがた」「ローンの支払いが出来なくなる」「子どもの授業料が払えなくなる」と深刻に受け止められています。

しよう。調整給をなくす準備として、この機会に毎月の給料から調整給部分もなくして、低賃金に慣らしていく。そのために当面は一時金にまとめて支給する。近い将来、すべて支給を停止する。これが会社のねらいです。ある会社幹部がこう言いました。「調整給は給料じゃない」。賃金カットは一年後には終了しますが、調整給の今後の取り扱いには「別途協議する」と労使で確認しています。



### エイズの悲劇

ABCアフリカという映画を見た。組合活動をきらう航空社に遠いアフリカに追いやられた主人公を描いた「沈まぬ太陽」という小説を読んでアフリカひかれていたから 明るい太の国ウガンダが舞台であり、にエイズについて描かれていドキュメンタリーである。ウガンダはアフリカ大陸の東にあり赤道直下に位置するが、全体高地であるため、暑さはそれほどでもないそうだが、二千万の人口のうち二百万人がアフリカにエイズで死亡し、さらに二万人がHIVに感染している映画のなかでは子供十一人をイイズで失った母親とか、多く患者が写し出されたエイズの設で、とくに泣き顔もなくなった幼児のうつろな、大きな印象的だった。また、死亡た、遺体を解体したダンボに包み自転車でどこかにぶ姿も描かれている。日常なことでも悲しみすらない。れでも太陽と、歌、踊りな力強く、生命ある、喜びにふれる映像も多数あり感動であった。ウガンダはエイ対策に国をあげて取り組み成功したアフリカでも希(けつ)のくにとか ひるえつて、日本を見ると。エズの総数は少ないが、先進では、エイズ患者が増える国だそう。

本庄 JIP

# だまっていたら、変わらな

## 職場の労働者が 連名で要望書

JIPテクノが四月一日、総勢一八名で発足しました。当初、労働条件も明らかにしないで退職と賃金の切り下げだけが宣伝された対象職場の従業員は不安にされました。



### 改善された労働条件

この結果 今年度のリフレッシュ休暇対象者に援助金を支払う。三十%以上賃金がダウンする人については一年間、百二十万円を上限として保証する。公休日数は沖の勤続年数を引き継ぐ。

「転籍は本人の承諾が必要」  
「即、転籍ではなく、仕事で安定するまでは出向に」  
「電機各社の退職金割増の比較」などの訴えは、労働者の共感を呼

## 国会で地域で!

日本共産党の吉川春子参議院議員は「沖電気の職場を明るくする会」との懇談会でJIPテクノへの転籍強要・転籍すれば賃金が四十%も少なくなる労働条件の低下などに「これは転籍などというきれいごとではない。解雇である」との立場で退職強要の違法性を国会で追及しました。

吉川参議院議員の国会での追及の報告集会は緊急の取り組みにも関わらず、労働組合・地域の住民などが参加し、「こういう職場で頑張っている人たちがいることに感銘を受けた」「がんばろうの歌を唄っていたらなぜか涙が止まらなかった」などの声が寄せられ、感動的な集会になりました。

集会の翌日には本庄・児玉地労連が沖電気生産センターの周辺に二千枚のビラをまき宣伝カーで沖電気のリストラのひどさを宣伝しました。

今回の職場からの行動と一連の闘いから、労働者の思い(要求)が重なり合い、自らの要求になったとき、大きな力を発揮することが実感され、これからの、沖電気のさらなるリストラに対して闘っていかねるとの



## エレベータもリニューアル

東京

五号別館にあるエレベータが一月下旬から約二ヶ月かけて内装が一新しました。フロアーで呼ボタンを押しても何分も待たされたり、同時に空の二台がくるなど不可解な動作をしていたエレベータです。改善を期待している人が多かったため、いま好評のようです。

また、このエレベータには、新たに「押ボタン・クリア機能」がついています。間違えて押し

## 時間管理が見直される 沖エアフォルタ

四月十一日付けの会社からの文書によると、労働時間の適正な把握のために使用者が構ずべき基準」に基づき労働基準監督署から指摘があったとして、概略、次のような内容でした。

時間外勤務単位時間は、これまで平日の場合一時間であったものを、十五分単位にする。

IDカードのスキヤンを定時退社時は省略していたが定時退社の場合も行なう。

昨年十月以降、半年分について、切り捨てていた、一時間未満の残業分について遡及払いをする。

というものです。「誰が労働基準監督署にチクったんだらう」「チクられても仕方ないか」い

## TSTを見てきました

本庄

テクニカルサポートチーム(TST)の職場を昼休みにたずねてきました。工場の一番はずれのプレハブのネギの箱詰め

の職場に入ると、ネギ独特の臭いが鼻にツーンときて目も痛くなるほどでした。夏の暑さ、冬の寒さ、この部屋で一日立ちっぱなしの作業。つらい仕事だと実感しました。隣の部屋は机と椅子だけ、ここに四五十人の人が一日中、なにもしないでじつとしてるだけ。「精神的にまいってしまふ」「生殺しだ」と話して



## リストラで別れの季節

群馬

三月いっぱいまで多くの仲間が会社を去りました。退職の挨拶にまわる人、黙って職場を去っていく人。複雑な思いで会社のコニフォームを脱いだことでしょうか。励ますはずが「私は辞めてしまっけど頑張ってくださいね」と逆に励まされてしまいました。五月の連休明けには本庄へ多くの仲間が異動していきます。主に試験、組立の職場ですが、そ

の結果富岡は部品加工と、新たに立ち上がったパートナー会社だけになります。調整給の一部カットなどありまっけ「分社化」が噂されたり、仕事量の先行きが不透明なことや「転進支援金B」の延長もあり職場では「今後どうなるのか」と不安感が広がっています。とりわけTSTチームに配属になった仲間はあちこちの職場の応援や会社外へ出向に出され、より状況は深刻です。実際は工数不足の職場もあるのですから雇用確保は社内でも実現するべきです。

## 引越してTSTのやま

八王子

八王子では四月一日組織変更が行われました。今回の特徴は設計部門、生産部門の分離を視野に入れたもので、ビジネス本部・デザイン本部・生産本部。研究本部の本部制を敷いています。各部門は独立採算を強調しFT(ファミトレ)と各人のMBO作成作業が展開されています。

一方フロアー(席換え)変更も引越し業者に依頼の中、行なわれませんでした。ある人は今年にはいつても三回も移動があり「その都度仕事が終わる」と嘆いています。今は各人がパソコンで仕事をしているため移動のたびにサーバーなどの接続に時間がかかり仕事が進まない理由です。さらに大量の廃棄書類とOA機器「面倒な反面、身のまわりがカタズクネ」と歓迎の声と「コスト低減を叫んでいるのにムダ使いではないか」との声も。上下左右のコミュニケーション円滑のために引越しが役立てば良いのですが。